

「学校配置の見直しについて」説明会 質疑応答要旨（鶴橋小学校）

実施日時：平成 26 年 7 月 15 日（火）19：00～20：30

参加者数：92 人

出席者：（生野区役所）清野区長、竹沢副区長、北邑教育振興担当課長
（教育委員会事務局）川口学校適正配置担当課長
（学校）松井鶴橋小学校長、二上鶴橋中学校長

統廃合の必要性やめざす方向性に関する質問・意見

1 小規模校の方が、子どもに目が行き届くのではないか。

今子どもの数が少ないからといってすぐ統廃合するのではなく、将来を見据えて判断していくべきではないか。

（区長）

近年の児童数の推移でみると、西側エリアの各小学校は概して毎年 10 人以上児童数が減っています。区の現状からみて個別に学校配置の見直しを考えるには限界があるので、区全体の教育環境という観点から今回取組を進めていきたいと考えています。

少人数のメリットも確かにありますが、少人数でのデメリットとして、教育活動の幅が狭くなるなどの課題もあると指摘されています。また、教員の校務の負担が重くなり、指導研究や子ども達と触れあうために割ける時間が限られてしまうということも課題です。

2 鶴橋幼稚園と鶴橋小学校はよく連携し子どもたちにもいい教育環境となっている。児童数だけで議論するのではなく、総合的な教育環境という視点で取り組むべきではないか。

（区長）

他区では小中一貫校という形で取り組まれている所もあります。区の教育の特性を踏まえて今後検討していきたいと思います。

3 100 年を超える長い歴史を持つ学校に対し地域住民は愛着を持っている。児童数で統廃合を進めるのではなくそういった観点も大切にしていけるべきではないか。

（区長）

区内のどの学校も長い歴史がありひとつの文化となっているので、文化の違う学校同士がひとつになるのは簡単ではないと認識しています。

新しい学校の位置は、通学の安全なども考慮し、今学校がある場所だけでなく公有地の活用も含めて検討していきたいと思います。

4 通学の距離はどの程度までの範囲で考えているのか。

（区長）

来年 4 月から小学校について、自宅から通学区域校まで直線距離で 400m 以上離れている方につ

いて、通学距離がより近い学校を希望できる制度を設けました。そういった点からも 400～500mがひとつの目安となってくるのではないかと思います。

統廃合の進め方に関する質問・意見

- 5 従前から資料や説明内容も変わっていない。地域住民、PTAの意見をまず聞いて欲しい。

(副区長)

これから意見交換していくスタートとして今回の説明会を開催させていただいています。9月以降意見交換会を開催し、様々な立場の方に入ってください丁寧意見交換を重ね具体案を決定していきたいと思います。

- 6 学校はそもそも教育を行うべき場所なので、統廃合が教育環境にどうプラスとなるのか説明してから、統廃合の議論に入るべきではないか。

(区長)

統廃合を検討するにいたった経過などについては昨年度からフォーラムや出前講座などで何度もご説明しご意見を頂いてきましたが、今回はさらに丁寧にご説明させていただける機会としてご説明しています。

区内の子どもの数がピーク時の1/3以下に減っている状況の中で、学校数は変化しておらず学校当たりの児童数は減っています。子どもの人数が減り学校に活気がなくなってくると、さらに子どもの数が減るといった悪循環も懸念されます。

まちづくりという観点からも学校というのは大切ですので、総合的な観点から子どものための適切な教育環境を考えていきたいと思います。

- 7 ブロック割は示されている内容で決定したものか。世代によって統廃合に対する考え方は大きく異なると思うし、今回の説明会の話が漠然とし過ぎていて、質問も何を聞けばいいかわからない。これから学校に就学する子どもの保護者の意見をよく聴いて尊重するべきではないか。

(区長)

子育て層のご意見の重要性は認識しています。

子どもの人数が少ない学校を機械的に廃校にしていくわけではないという考え方で、区全体のよりよい教育環境を整えるために、ブロック単位で皆さんと一緒に学校のあり方を考えていきたいというのが今回の取組の趣旨です。

- 8 統廃合の具体案はもう決まっているのではないか。早く具体的な話をすべきではないか。

(区長)

地域のみなさんは様々な面で学校を支えていただいております、文化の違う学校同士が一つになるのは非常に困難なことですが、なるべく早く具体案を提示させていただきたいと考えています。その上で、子どもや地域が新しい環境に円滑に移行していただけるよう統合の準備のために時間を十分に確保したいと考えています。

9 統廃合のスケジュールはどうなっているのか。

(区長)

お配りしている資料では前期4年で西側エリア、後期4年で東側エリアを見直していくというモデルスケジュールをお示ししています。

統廃合を決定しても移行のためにはソフト、ハード両面で新しい環境整備のために十分な準備の時間が必要であるので、目安としてお考えいただきたいと思います。

10 小学校と地域は密接な関係がある。例えばこどもの安全確保について、今行っている見守り隊の方々は地域の子どもの顔もよく知っている。結局、統廃合という形に持っていきたいのではないかと感じる。小規模校の方が教員の目が行き届き、学校教育はうまくいっているのに、人数の多少ではなく質が問題ではないか。限られた財源を効果的に学校教育に配分していただきたい。

(区長)

それぞれの学校の良さは実際に各学校の活動を見させていただく中で感じています。各学校の持つ良さを他に広げてもらいたいと思います。

11 新しい学校環境について距離や施設などの問題よりも、いかに子どもたちのストレスが少なく新しい環境に移行していけるのかということによく配慮して取組を進めていって欲しい。

(区長)

統廃合を経験されたある校長から聞いた話では、その学校に新しく入ってきた子が卒業していく頃によりやく新しい文化が馴染んでくるということもあります。

なるべく早くに具体案を提示させていただき、その上で子どもや地域が新しい環境に円滑に移行していただけるよう統合の準備のために時間を十分に確保したいと考えています。

その他の質問・意見

12 学校選択制と時期が重なっているが影響はどう考えているのか。

(区長)

学校選択制の本来の目的は、各学校が特色を出していき、その特色に応じて保護者の方が受けたい教育を提供する学校を選べる、というものであり、学校統廃合とは目的が異なります。今後、学校配置の見直しの取組状況を見ながら小学校での学校選択制も検討していく予定です。

13 子どもの数を増やしていく取組が必要ではないか。

(区長)

統廃合してできた新しい学校がすぐに小規模となってまた統廃合を繰り返すということにならないよう、今回の方針は概ね30年後くらいの人口推計を考慮しています。

学校統合協議会にはまちづくり協議会の方にも入っていただきたいと思っていますが、まちの活性化という観点からもお話を続けていきたいと思っています。